自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第２部課程第２０４期）

秦野市文化スポーツ部スポーツ推進課　水野 統之

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

１　はじめに

私は、自治大学校における令和６年度の第一陣となる第２部課程・法制集中研修に４月１８日から７月９日までの間、参加いたしました。

受講の打診を受けたときには、普段、呼ばれることのない人事課からの呼び出しに内心不安になりながら、予想だにしないお声がけに光栄な気持ちと同時に先ほどとは違う種類の不安な気持ちでいっぱいになったことを覚えています。

しかしながら、自治大を卒業された諸先輩方の経験談やご活躍されている姿を見聞きする中で、一生に一度しか経験できないであろうこの機会を好機と捉え、自らの糧にしようと心に決め、普段の職務の中では身につけることのできない知識・スキルの習得と全国から集まるまだ見ぬ仲間たちとのネットワークづくりの２つをテーマに、立川の地へ赴きました。

２　知識・スキルの習得

(1)　第２部課程第２０４期

私の仲間たちは、北は青森県から南は沖縄県まで、合計１９人と歴代の第２部研修の中でも、最少人数での研修となりました。

自治大学校での研修は、我々地方自治体職員にふさわしく、数多くの著名な講師陣に、多角的な視点から時機を得た講義を受けることができ、その講義においては、研修生自らが主体的に取り組めるよう、ディベートや発言の機会が多く与えられます。

この日々の講義の中では、最少人数であるがゆえに、ディベートなど発言の機会の多い研修を皆で一丸となって、乗り越えることで、その主体性を通して、考えに深みが生まれ、質の高い学びを得ることができたと感じています。

また、令和６年度から必修となった講師養成科目では、今まで、意識的に訓練したことがない分野ではありますが、研修生同士でお互いの発表を観察しあい、改善点を話し合いながら進めることで、「伝える」ということを学ぶことができました。

次に、事例演習では、全国の先進的な取組を踏まえた事例について、討議するとともに、各自が持ち寄った問題事例の解決策を皆で協議し、それぞれの自治体における悩みを共有するなど、大変、有意義な体験をさせていただきました。

最後に、第２部課程の研修のメインでもある「政策立案研修」では、本市を提案市と設定し、教育関連の政策提案について、５名のグループで意見を出し合い、先進的な取組をしている自治体への視察も行いながら、政策提言を纏（まと）め上げ、帰庁したのち、市長・教育長に対し、提言できたことは、外部教官や内部教官の適切な助言はもとより、政策提言を纏（まと）め上げる過程において、チームとして真剣に取り組み、それぞれの力を存分に発揮することができた成果だと感じています。

(2)　法制集中研修

約３週間の短い期間で、憲法をはじめとした我々地方自治体職員の行動原理となる法制科目について、集中的に講義が行われます。

それぞれの法制科目における効果測定に向けて、仲間たちと共に学びを高めあった時間は、まるで学生時代に戻ったかのような、心地よさを感じることができました。

普段の職務においては時間に追われ、学びなおすことのできない職務遂行の基本となる知識を学ぶことを通じて、改めて公務員としての責任感と自覚を強く感じるとともに、この有意義な時間を得られる喜びを感じることができました。

３　ネットワークづくり

入寮したての頃は、研修生全員が生活環境を整えながら、研修を受講し、お互いの顔と名前と自治体名を一致させることに苦戦しながら、共同生活を送るためのルールづくりや関係性の構築を行うことになります。

私たち第２０４期は、他の年代の研修生とは違い、全員が一つのフロアに集まることができ、研修のみならず、研修生の憩いの場となる談話室や廊下などで、顔を合わすことが多くなり、自然と仲良くなっていくことができました。

そうこうしていると、各自治体の諸先輩方から、美味しい地酒や肴、各地のカップラーメンなどが続々と送られてきて、それらを研修生皆でいただきながら、それぞれの故郷の話や職場や仕事での悩みなどを語らい、時には、スポーツ観戦や立川外食巡り、サウナなど共通の趣味や食事の時間を共有することで、とても親しい友人のように強い絆が生まれてきます。

２か月半もの間、楽しい時間も苦しい時間も全てを共有し、力を合わせながら乗り越え、支えあい、喜びを分かち合う中で、最高の仲間を得ることができ、この自治大学校で培った絆は、私の生涯の財産になると強く感じるとともに、各地の同じ志を持つ仲間たちが頑張っていると思うと、大変心強く、身の引き締まる思いがしています。

４　おわりに

数多くの著名な講師による講義や同じ志を持つ仲間たちと語り合う中で、今や地方それぞれの地域特性を熟知し、創意と工夫により、時代を切り開いていかなければならないことを実感し、住民に一番近い地方自治体が地方自治の本旨に則り、地域の抱える課題を正確かつ的確に捉え、民間活力の活用も含めたまちづくりの推進が大切であると感じました。

今回の研修で得た知識や築いたネットワークをこれからの職務において活かすとともに、同僚や後輩に伝えていくことが、私の責任であり、快く送り出してくださった職場の仲間への恩返しだと考えています。

最高の仲間たち（第２０４期）